

いじめ等対策委員からのメッセージ

函館の子どもたちへ

つらい時、悲しい時、泣きたい時、気持ちを聴いてほしい時、誰かの肩をちょっとたたいてみて・・・。

振り向いてくれるまで、何度も何度もあきらめないでたたいてみて・・・。

必ず振り向いてくれる人がいるから・・・。

肩をたたいてくれるのを待っている人が必ずいるから・・・。

夏の中体連大会の時期に、しばらくぶりに電車に乗りました。

ジャージを着た大勢の中学生が、始発の電停から一人も席に座らず、吊革につかまり、立ったままでした。

その時の楽しそうに話し合っている中学生の姿が忘れられません。

胸の校章が輝いて見えました。

今、みなさんはすてきな大人になるために、一步一步階段をのぼるように成長しています。これまでに、うれしいことや、楽しいことばかりではなく、悲しいことや、とてもつらいことなどとも出会い、そのたびに、悩みながら乗り越えてきたと思います。

なぜ乗り越えられたのでしょうか。

自分では意識していなかったかもしれませんが、あなたが「本音で向き合って」自分の思いを伝えたから、相手も「本音でこたえてくれた」のだと思います。

お家の方は、あなたが本音で話したことを丸ごと受け止め、しっかりと抱きしめてくれることでしょう。

あなたのまわりには、本音でこたえてくれ、一緒に寄り添ってくれる友達や先生、地域の親しい大人がたくさんいることを決して忘れないでください。

みんなの力を合わせて、いつも笑い声がひびきわたる楽しい学校生活を築いていってほしいと思っています。